

# 東芝名古屋ビル



所在地：愛知県名古屋市区西2-33-10  
 構造・規模：鉄筋コンクリート造、地上8階地下1階建  
 建築面積：1992.21㎡  
 延床面積：16413.47㎡  
 施主：NREG東芝不動産㈱  
 照明更新施工：東芝プラントシステム（株）  
 照明更新完成：平成25年3月

S213

名古屋駅の北側、国道22号線沿いに位置する東芝名古屋ビルが、築20年以上を経た老朽化に伴い照明設備を段階的にLEDにリニューアル。年間で、1フロアあたり、最大約34%もの省エネ効果が試算されています。

延床面積約16,400㎡。大規模なオフィスビルを段階的に省エネ化

1991年5月に竣工した東芝名古屋ビルでは、2012年末より、設備老朽化への対応と地球環境への配慮を両立するため、「めざせ！1人、1日、1kg CO<sub>2</sub>削減」をスローガンに、照明設備の段階的なLED照明リニューアルを実施しています。

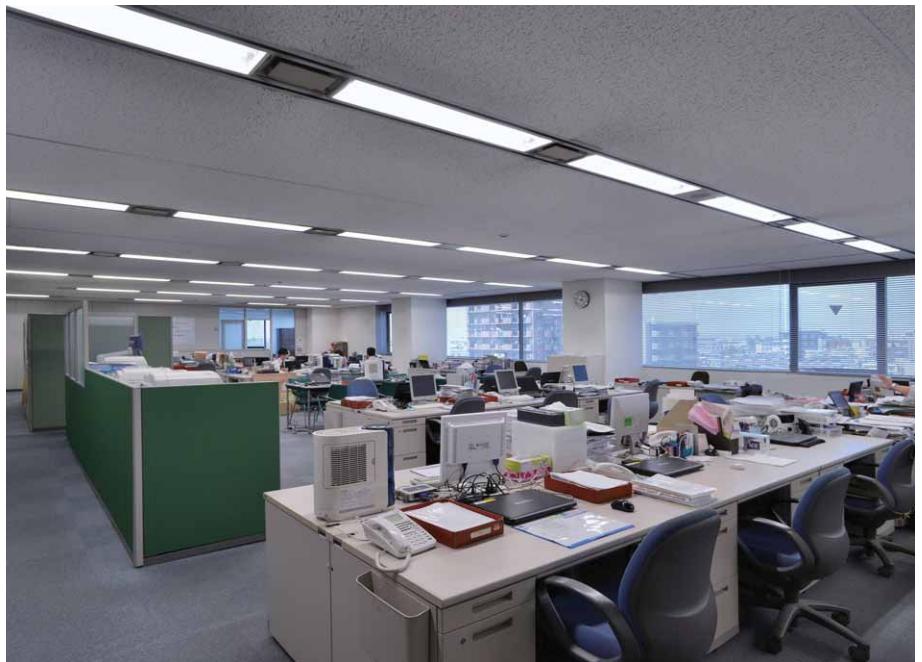
このLED照明リニューアルによる省エネ効果の試算では、既存の照明設備と比較して、6階フロアでは約32%、8階フロアでは約34%もの年間消費電力の削減が見込まれています。

既設のシステム天井や照明設備に合わせたきめ細かなLED照明リニューアル

8階の執務エリアでは、これまで使用されていたシステム天井用Hf32形定格出力2灯用蛍光灯器具のサイズに合わせて、220mm幅のシステム天井用直管形LEDベースライト（FLR40形2灯用蛍光灯相当）埋込下面開放器具へ更新。適正照度を確保しつつ、既設（73W）に対し消費電力48Wと大幅な省エネおよびCO<sub>2</sub>削減をしています。同時に色温度は昼白色の5000Kに統一したことにより自然なあかりとなり、均斉度も高まり、パソコンのディスプレイ作業においても目に優しい光環境が得られています。

6階、5階、4階の執務エリアは、これまで使用していた300mm幅のシステム天井用FLR40形3灯用蛍光灯器具から特注のシステム天井用リニューアルプレートに一体形LEDベースライト薄形タイプ（Hf32形高出力2灯用蛍光灯相当）を設置して更新。すっきりした意匠で天井面に溶け込み、開放感を高めた執務空間を形成しており、下面乳白カバーによる拡散光でグレアを抑制しつつ適正照度を確保しています。

また、そのほか、8階の支社長室や1階の応接室、会議室では、既設のFLR40形4灯用または6灯用蛍光灯埋込スクエア乳白カバー付器具をそのまま残しながら、直管ランプシステム増灯ユニットを用いて内部のランプのみを直管形LEDランプ40タイプに更新。同時にその周囲に配置しているJD85WダウンライトをLED一体形ダウンライト500シリーズに置き換えて、消費電力の削減を図っています。



8階執務エリアの照明 システム天井用直管形LEDベースライト埋込下面開放器具に更新



8階執務エリアの打合せコーナー周辺の照明



システム天井用直管形LEDベースライト埋込下面開放器具



システム天井用リニューアルプレート＋一体形LEDベースライト薄形タイプに更新した5階執務フロア



ランプのみを直管形LEDランプ40タイプに更新した1階応接室(左)、1階会議室(右)



## 主な照明器具一覧

設置場所	器具名	形名	台数	備考
8F 執務エリア	直管形LEDベースライト埋込下面開放タイプ	LEDR-42800-LDJ(改)	64	LED 消費電力:48W
6、5、4F 執務エリア	一体形LEDベースライト薄形タイプ(乳白カバー)	LEDT-63143N-LDJ	140	LED 消費電力:63W
	一体形LEDベースライト薄形タイプ(乳白カバー)	LEDT-47133N-LDJ	66	LED 消費電力:49W
6、5F 会議室	直管形LEDベースライト埋込下面開放タイプ	LEDR-42540-LDJ	28	LED 消費電力:48W
8F 支社長室	直管形LEDベースライト	BOX-415-LDJ	16	LED 消費電力:26W
1F 応接室、会議室	直管形LEDベースライト	BOX-415-LDJ	42	LED 消費電力:26W
	LED一体形ダウンライト500シリーズ	LEDD-66007ML-LD1	14	LED 消費電力:7.4W